「自治体への寄附に関するアンケート」リサーチプラン

１．調査の目的

自治体への寄附については、ここ数年ふるさと納税制度の創設により、関心が高まる一方で、税控除や返礼品競争など、制度本来の趣旨を逸脱しているのではないかなど問題点が指摘されている。

一部の報道では、寄附者が寄附の使途や活動内容に共感し、地域を応援するという制度本来の趣旨に立ち戻る動きや意識の変化が出てきているとも言われている。

大阪府としては、貴重な財源となる寄附について、寄附者から共感が得られる事業の実施、成果や効果の発信の強化、返礼品に頼らない感謝の表し方について検討を行うため、寄附者等の意識を本調査で明らかにし、今後のより多くの寄附確保に向けた取り組みの参考とする。

２．調査方法

　　調査対象：国政調査の結果（平成27年）に基づく性・年代の割合で割り付けた18歳以上の

全国1,000人（自治体への寄附経験者8割以上、残り寄附関心者）

３．調査仮説

　　仮説１：ボランティア活動の経験者は、経験がない人に比べ、今後寄附で重視する項目として返礼品よりも使途共感や地域応援を重視する割合が高い。

仮説２：返礼品がなくても寄附する人は、若年層よりも中間層、高齢層にかけて割合が高い。また、若年層に比べ、高齢層の方が、今後寄附で重視する事項として、寄附の使途や活動報告、自分の意見の反映などを重視する割合が高い。

仮説３：寄附する際に寄附の使途・活動目的を重視する人は、重視しない人に比べ、寄附をしてよかったと感じる（返礼品除く）人の割合が高く、活動報告を求める割合も高い。

４．質問項目

ＳＣ質問…４問

ＳＣ１　これまで自治体に寄附をしたことがある人、または自治体への寄附に関心がある人

ＳＣ１　性別（ＳＡ）

ＳＣ２　年齢（Ｎ）

ＳＣ３　都道府県（ＳＡ）

本質問…１７問

【寄附経験あり】

Ｑ１　　初めて寄附をした時期（ＳＡ）

Ｑ２　　この１年間で自治体に寄附した回数（ＳＡ）

【この１年間で寄附経験あり】

Ｑ３　　この１年間で寄附した団体数（ＳＡ）

Ｑ４　　この１年間で寄附した総額（ＳＡ）

【全員】

Ｑ５　　自治体に寄附したいと思った動機（MＡ）

【動機：働きかけ】

Ｑ６　　どこからの働きかけがあったか（ＭＡ）

【全員】

Ｑ７　　どのような使途・目的（分野別）に寄附したか（したいか）（ＭＡ）

Ｑ８　　どのような使途・目的（性質別）に寄附したか（したいか）（ＭＡ）

Ｑ９　　返礼品の有無によって寄付するか否か（ＳＡ）

【寄附経験あり】

　Ｑ１０　　寄附をしてよかったと感じたか（ＭＡ）

　　　　　※地域の魅力・つながり・事業参画などよかった、など

良かったと感じたことはない⇒その理由

　Ｑ１１　　初めて自治体に寄附したときの動機は（SＡ）

　　　　※“返礼品等目的”、“使途共感・地域応援”、“両方”、その他、わからない

【返礼品等目的】

Ｑ１２　　今の気持ちに変化があるか（ＳＡ）

　　　　※変わらない、より強まった、使途共感等も少し強まった、使途共感の方が強まった

【使途共感・地域応援】

Ｑ１３　　今の気持ちに変化があるか（ＳＡ）

　　　　※変わらない、より強まった、返礼品目的も少し強まった、返礼品目的の方が強まった

【両方】

Ｑ１４　　今の気持ちに変化があるか（ＳＡ）

　　　　※変わらない、返礼品目的の方が強まった、使途共感の方が強まった

【全員】

Ｑ１５　今後の寄附で重視すること（表組：ＳＡ）

【寄附経験あり】

Ｑ１６　これまで使途・目的の活動や成果報告の受けたことがあるか（ＳＡ）

【全員】

Ｑ１７　寄附の活動報告についてどのようなことを求めるか。（ＭＡ）

　Ｑ１８　ボランティア活動の有無（ＳＡ）

　【ボランティア活動あり】

Ｑ１９　ボランティア活動の種類（ＭＡ）

【全員】

Ｑ２０　寄附の意欲がわく取組み意見（自由記述）

　Ｑ２１　職業（ＳＡ）

Ｑ２２　世帯年収（ＳＡ）

５．分析の方法

①仮説１の検証

・「ボランティア経験（Q１８）」別に

「今後寄附で重視すること（Q１５）の寄附の使途等共感、出身や縁、返礼品の充実等の重視の各割合」を集計

　②仮説２の検証

・「年齢（ＳＣ２）若者層、中間層、高齢層」別に「返礼品による寄附の有無（Q９）」を集計

・「年齢（ＳＣ２）若者層、中間層、高齢層」別に「今後寄附で重視すること（Q１５）の寄附の使途や活動報告、意見の反映共感、返礼品の充実等の重視の各割合」を集計

③仮説３の検証

・「今後寄附で重視すること（Q１５）の１．寄附の使途等共感の【重視層】【非重視層】」別に、「寄附してよかったと感じる（Ｑ１０）」、「寄附の活動・成果報告を求める（Ｑ１７）」の各層別を集計